

美術館だより

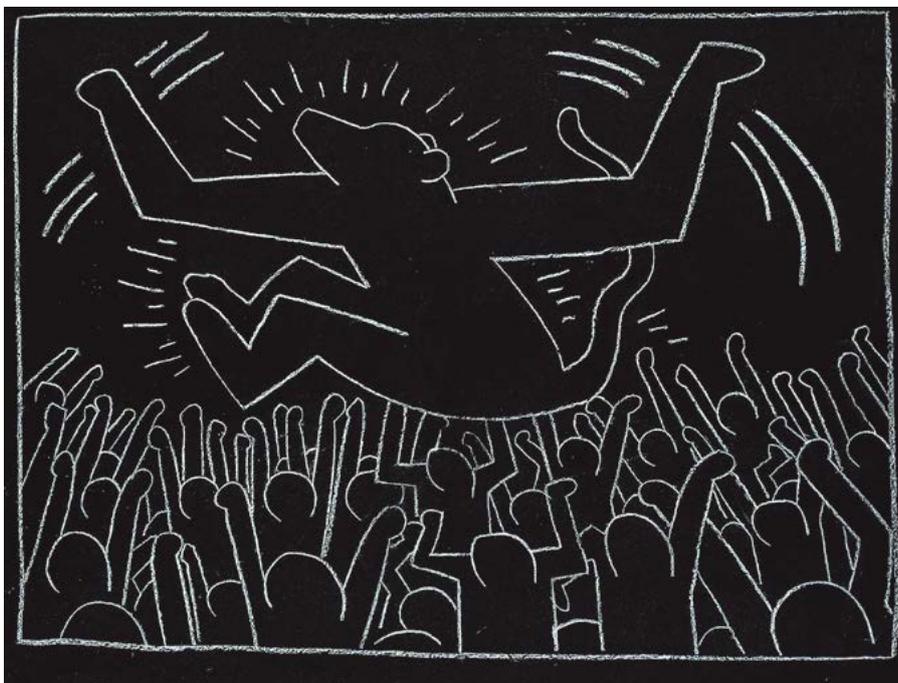
Contents

- 1 企画展「キース・ヘリング展 アートをストリートへ」より(近代美術館)
- 2 企画展「キース・ヘリング展 アートをストリートへ」(近代美術館)
- 3 企画展「奥原晴湖と近代の南画」(五浦美術館)
- 4 企画展「アーツ・アンド・クラフツとデザイン ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで」(近代美術館)
- 5 企画展「浮世絵展—隅田川でたどる江戸の暮らしと文化—」(五浦美術館)
- 6-7 事業レポート
- 8-9 企業パートナーシップ事業
- 10 インフォメーション

No.130
Feb 13, 2025

茨城県近代美術館

「キース・ヘリング展 アートをストリートへ」より



キース・ヘリング《無題(サブウェイ・ドローイング)》1981-83年
中村キース・ヘリング美術館蔵 Keith Haring Artwork ©Keith Haring Foundation

キース・ヘリングは1980年から、人種や性別などを問わず多くの人々が利用するニューヨークの地下鉄に注目して、駅構内の空いている広告板に貼られた黒い紙にチョークで絵を描く「サブウェイ・ドローイング」を開始しました。一点あたり数十秒から数分程度で描き上げ、多いときには1日40点近くも制作したと言われていました。公共物への制作は違法であるため、警察に捕まらないように描いた後はすぐに地下鉄に乗って現場から立ち去りました。シンプルな線で素早く描き出された自由奔放なイメージは、瞬く間に人々を魅了し、ヘリングの存在を

世に知らしめることになりました。

「サブウェイ・ドローイング」の一点である本作には、猿のような擬人化された動物と、その下で腕を振り上げる無数の群衆の姿が描かれています。群衆はこの動物を熱烈に支持しているのでしょうか、それとも支配に抗して蜂起しているのでしょうか。細部の描写の省略やアクションラインによる身体の動きの強調といったヘリングの表現手法が特徴的に表れた本作は、劇的な光景でありながら謎めいた印象を見る者に与えています。

[近代美術館 学芸員 乾健一]

会 期：2025(令和7)年2月1日[土]～4月6日[日]
開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
休 館 日：月曜日、ただし2月24日(月・振)は開館、翌日休館
入 場 料：一般1,360(1,240)円／満70歳以上680(620)円／
 高校生1,130(980)円／小中生550(420)円
 ※()内は20名以上の団体料金
 ※障害者手帳等をご持参の方及び付き添いの方1名は無料
 ※春休み期間を除く土曜日は高校生以下は無料
 ※2月1日[土]は満70歳以上の方は無料
主 催：茨城県近代美術館
特別協力：中村キース・ヘリング美術館
協 力：ぴあ
企 画：朝日新聞社／東映
後 援：水戸市／朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／NHK水戸放送局／
 産経新聞社水戸支局／東京新聞水戸支局／
 日本経済新聞社水戸支局／毎日新聞水戸支局／
 読売新聞水戸支局／LuckyFM茨城放送

展覧会の概要

明るく、ポップなイメージで世界中から愛されているキース・ヘリング(1958-1990)。ヘリングは「アートはみんなのために」という信念のもと、1980年代のニューヨークを中心に地下鉄駅構内やストリートなど日常にアートを拡散させ、混沌とする社会へ強いメッセージを発信しました。日本を含む世界中での壁画制作やワークショップの開催、児童福祉活動などを積極的に展開したことで知られています。エイズによる合併症により31歳で死去したため、創作活動期間はわずか10年ほどですが、残された作品に込められたメッセージは今なお色褪せていません。

本展では中村キース・ヘリング美術館のコレクションを中心に、絵画、彫刻、舞台セットやポスターなどの作品を通して、ヘリングのアートを体感いただくとともに、その多彩な表現活動をご紹介します。社会に潜む暴力や不平等に対して最後までアートで闘い続けたヘリングの作品は、時空を超えて現代社会に生きる人々の心を揺さぶることでしょう。

みどころ

・日本初公開作品を含む約150点が集結

初期の1979年から亡くなる1990年までヘリングの多彩な仕事ぶりを知ることができる約150点の作品が勢ぞろいします。特にアーティスト活動初期に地下鉄駅構内で制作されたサブウェイ・ドローイングについては、ニューヨークから出品される日本初公開の5点を含む7点が一堂に展示される貴重な機会となります。ほかにも、光り輝く赤ん坊「ラディアント・ベイビー」をはじめとするヘリングのポピュラーなモチーフが描かれた《アイコンズ》や、ニューヨークでの最後の個展に出品された三角形の変形キャンバスによる大作《無題》などが出品されます。

・ダイナミックな展示空間

蛍光色に光る作品、闇の中に作品が浮かび上がる空間、1980年代ニューヨークさながらの喧噪、そして6メートルに及ぶ大型作品など展示空間がダイナミックに展開します。

本展は一部のエリアを除き来館者による写真撮影が可能です。

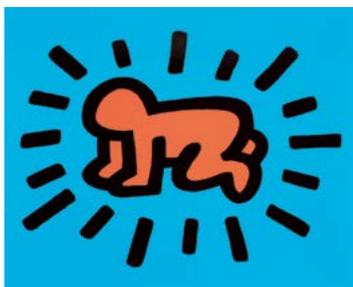
・現代へのメッセージ

「アートはみんなのために」という信念のもと、核放棄、反アパルトヘイト、HIV・エイズ予防啓発や性的マイノリティのカミングアウトの祝福など、社会へのメッセージをアートで訴えたヘリング。国境を超え、世代を超えて響き続けるヘリングのメッセージにご注目ください。

・キース・ヘリングと日本

ヘリングは日本に特別な想いを抱いており、数度にわたり来日しました。1988年にはヘリングがデザインしたグッズを販売するポップショップ東京を青山にオープンし、大きな話題を呼びます。本展では、茶碗や扇子などポップショップ東京のために制作された代表的なアイテムを1988年来日時の写真とともに紹介します。

[近代美術館 学芸員 乾健一]



《アイコンズ》
1990年



《無題》1988年



《沈黙は死》1989年



『スウィート・サタデー・ナイト』の
ための舞台セット
1985年



ポップショップ東京で
販売された扇子
1988年

すべて 中村キース・ヘリング美術館蔵
All Keith Haring Artwork ©Keith Haring Foundation

企画展 奥原晴湖と近代の南画

会 期：2025(令和7)年2月21日[金]～4月20日[日]

※会期中、一部展示替えを行います。

前期：3月23日[日]まで/後期：3月25日[火]から

開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)

休 館 日：月曜日、ただし2月24日(月・振)は開館、翌日休館

入 場 料：一般360(290)円/満70歳以上180(140)円/

高校生240(170)円/小中生170(110)円

※()内は20名以上の団体料金

※障害者手帳等をご持参の方及び付き添いの方1名は無料

※春休み期間を除く土曜日は高校生以下は無料

※3月1日[土]は満70歳以上の方は無料

主 催：茨城県天心記念五浦美術館

展覧会の概要

中国の文人画にルーツをもち、山水や花鳥に漢詩を添えて画家の胸中の理想世界を描く「南画」は、江戸中期から明治初期にかけて大いに流行しました。美術指導者として近代日本美術を牽引した岡倉天心(1863-1913)も、上野に画塾を構えた南画家・奥原晴湖(1837-1913)に南画を習った時期があります。

現在の茨城県古河市出身の晴湖は1865(元治2)年、29歳で江戸へ出ると、維新後には時代の雰囲気と合致した大胆・奔放な筆致の作品を描くようになり、名声を博します。女性でありながらいち早く断髪するなど、豪胆な性格でも評判だった晴湖は、政財界の要人などの後援者にも恵まれました。1891(明治24)年、55歳で埼玉県の熊谷へ隠棲しますが、以降は東京で活躍した時代とは対照的な、精緻で細密な作品を晩年まで描き続けました。

本展では、東京・熊谷両時期の晴湖の作品のほか、同時期に活躍した猪瀬東寧(1838-1908)や野澤白華

(1845-1904)ら茨城ゆかりの南画家、さらには大正期に活躍した小川芋銭(1868-1938)ら新南画を生み出した画家たちの作品を紹介します。

みどころ

・奥原晴湖の作品を多数展示

大胆奔放な筆致の水墨山水画で一世を風靡した東京時代と、謹厳精緻な彩色山水画を多く手掛けた熊谷隠棲時代。両時期の晴湖の作品を、一部作品を展示替えして展覧します。晴湖を特集する展示は、県内で15年ぶりとなります。

・新収蔵作品や茨城ゆかりの南画家の作品をご紹介します

2022(令和4)年度に茨城県近代美術館に収蔵された田能村直入(1814-1907)、渡辺小華(1835-1887)、松林桂月(1876-1963)ら近代の南画家たちの作品を展示します。また、小華の門人で常陸大宮市出身の野澤白華や、晴湖と親交があり多くの展覧会で賞を得た常総市出身の猪瀬東寧など、茨城ゆかりの南画家の作品もあわせてご紹介いたします。

・小川芋銭らによる大正期以降の新南画を紹介

大正期には、西欧の近代絵画に接したことで、東洋の絵画や文化に再び目を向けるようになった画家たちにより、既存の南画の形式にとらわれず、より自由な画題や様式で詩的感情を描く「新南画」が誕生しました。老荘思想を探究し、独自の作風を展開した小川芋銭の作品を中心に、新南画の世界観もお楽しみください。

[天心記念五浦美術館 学芸補助員 宮本夢花]



奥原晴湖《山水図》1897年
茨城県立歴史館蔵
※前期展示



奥原晴湖《威震八荒図》1908年
茨城県立歴史館蔵
※後期展示



渡辺小華《名花十友図》1860年
茨城県近代美術館蔵



小川芋銭《千金方善述》
1926年
茨城県近代美術館蔵

松林桂月《山中探奇図》1932年
茨城県近代美術館蔵

企画展 アーツ・アンド・クラフツとデザイン

ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで

会 期：2025(令和7)年4月19日[土]～6月29日[日]
 開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
 休 館 日：月曜日及び5月7日[水]
 ※GW中(4月29日[火・祝]～5月6日[火・振])は無休
 入 場 料：一般1,360(1,240)円/満70歳以上680(620)円/
 高大生1,130(980)円/小中生550(420)円
 ※()内は20名以上の団体料金
 ※障害者手帳等をご持参の方及び付き添いの方1名は無料
 ※土曜日は高校生以下は無料
 ※4月19日[土]は満70歳以上の方は無料
 主 催：茨城県近代美術館
 後 援：プリティッシュ・カウンシル/水戸市/朝日新聞水戸総局/
 茨城新聞社/NHK水戸放送局/産経新聞水戸支局/
 東京新聞水戸支局/日本経済新聞水戸支局/
 毎日新聞水戸支局/読売新聞水戸支局/LuckyFM茨城放送
 企画協力：株式会社プレーントラスト

展覧会の概要

19世紀後半にイギリスでおこったアーツ・アンド・クラフツ運動は、産業革命以後の機械化された工場で作られる粗悪な量産品や商業主義を批判して、職人の手仕事による上質なもののづくりを見直すとともに、生活と芸術の一体化を目指しました。その中心となったのが、デザイナーのみならず詩人、社会運動家としても知られるウィリアム・モリス(1834-96)です。その思想は、同時代の芸術家たちにひろく受け入れられ、イギリスはもちろん、世界各地へとひろがりました。アメリカでは建築家フランク・ロイド・ライト(1867-1959)らが参加して新たな展開を見せるとともに、その後も、この運動の精神は、現代のデザイン思想にまで引き継がれています。

本展では、モリスの代表作として名高いテキスタイル《いちご泥棒》から、ライトがニューヨーク州に設計した邸宅のステンドグラスに至るまで、家具、金属製品、ガラス製品、宝飾品、書物といった約170点に及ぶ多彩な作品を通じて、モダン・デザインの源流となったアーツ・アンド・クラフツ運動の魅力とひろがりをご紹介します。

みどころ

①ウィリアム・モリスが手がけた、日本でも人気のデザインや作品を紹介

モリスは友人たちと1861年にモリス・マーシャル・フォークナー商会(1875年からはモリスの単独経営によるモリス商会)を設立して、様々な作品を制作しました。既述の《いちご泥棒》(テキスタイル)をはじめ、《格子垣》(壁紙)、《るりはこべ》(壁紙)など、モリスのデザインを代表するテキスタイルや壁紙を中心に、家具や書籍などもあわせて展示します。

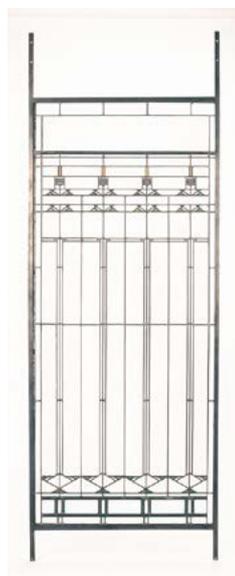
②イギリスにおけるアーツ・アンド・クラフツの展開

アーツ・アンド・クラフツ運動の精神は、イギリス国内にひろがり、新たにいくつもの会社が設立されます。現在ではロンドンの老舗百貨店として知られるリパティ商会(1875年設立)もその一つです。同社をはじめとする、モリスが提唱したアーツ・アンド・クラフツ運動の精神を受け継ぐ者たちによるテキスタイルや宝飾品、食器、家具等を紹介しします。

③アメリカでのアーツ・アンド・クラフツ

モリスの没後、アメリカでは、ボストン、シカゴ、ニューヨーク、デトロイトなど各地にアーツ・アンド・クラフツ協会が設立されました。シカゴ・アーツ・アンド・クラフツ協会の創設メンバーである建築家フランク・ロイド・ライト、ガラス製品で人気を博したティファニー・スタジオなど、アメリカにおけるアーツ・アンド・クラフツの展開を紹介しします。

[近代美術館 首席学芸員 山口和子]



フランク・ロイド・ライト
《マーティン邸のステンドグラス・ドア》
1904年頃
© 2025 Frank Lloyd Wright Foundation /
ARS, NY / JASPAR, Tokyo E5887



ウィリアム・モリス《格子垣》
1864年



ウィリアム・モリス《いちご泥棒》
1883年



おそらくフィリップ・ウェップ
《サセックス・シリーズの肘掛け椅子》
1860年頃



ジェームズ・クロマー・ワット
《ホワイトメタルのエナメル・ペンダント》
1920年頃 リパティ商会



ティファニー・スタジオ
《三輪のリリーの金色ランプ》
1901-25年

すべて Photo © Brain Trust Inc.

企画展 浮世絵展—隅田川でたどる江戸の暮らしと文化—

会 期：2025(令和7)年4月26日[土]～6月8日[日]

※会期中、一部展示替えを行います。

前期：5月18日[日]まで／後期：5月20日[火]から

開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)

休 館 日：月曜日及び5月7日[水]

※GW中(4月29日[火・祝]～5月6日[火・振])は無休

入 場 料：一般710(590)円／満70歳以上350(290)円／

高校生470(360)円／小中生240(180)円

※()内は20名以上の団体料金

※障害者手帳等をご持参の方および付き添いの方1名は無料

※土曜日は高校生以下は無料

※5月24日[土]は満70歳以上の方は無料

主 催：茨城県天心記念五浦美術館

後 援：朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／NHK水戸放送局／

産経新聞社水戸支局／東京新聞水戸支局／

毎日新聞水戸支局／読売新聞水戸支局／LuckyFM茨城放送

北茨城市／北茨城市教育委員会

※本展はパートナー企業からの支援を受けています。

展覧会の概要

江戸時代、町人文化の興隆とともに浮世絵は世界的にも類を見ない独自の発展を遂げました。特に木版の浮世絵は、大量生産によって多くの需要に応え、印刷技術の向上や色材の改良で表現も多彩化し、美人画、役者絵、名所絵など描かれる題材も徐々に広がっていきます。江戸時代の終焉とともに、浮世絵は一定の役割を終えることとなりますが、近代以降も楊洲周延、月岡芳年、小林清親らによってその伝統が継承されていきます。

本展では、江戸時代後期から明治時代にかけての浮世絵の精華を伝えるプライベートコレクションを紹介し、同コレクションの特徴として、隅田川流域の様子を描いた

作品が多数蒐集される点が挙げられます。歌川広重の名所絵、風景と美人を組み合わせた歌川国貞や歌川国芳の作品には、失われた江戸の風景や花見や舟遊びに興じる人々の様子が生き生きと描かれています。そのほか美人画や役者絵など約250点を公開し、華やかな江戸文化へとご案内します。

みどころ

・約250点の浮世絵が集結

当館では過去数度にわたり浮世絵展を開催し、いずれも好評を博してきました。今回は前期／後期を通じて約250点を一挙公開し、過去最大のボリュームでお届けいたします。浮世絵の世界をじっくりとご堪能いただける又と無い機会です。

・100点を超える歌川国芳の作品を展示

近年、全国各地で個展が開催されるなど人気が鰻登りの浮世絵師・歌川国芳の作品も多数紹介します。「奇想の絵師」とも称される国芳の魅力が詰まった展覧会です。

・江戸文化と現代との比較を楽しむ

浮世絵は失われた江戸の風景を今に伝えていますが、歌舞伎や相撲を観覧したり、あるいは花見やファッションを楽しんだりする感覚は私たち現代人の感覚にも通じるものがあります。浮世絵の世界を通じて、江戸文化への共感や新たな発見を楽しんでいただけますと幸いです。

[天心記念五浦美術館 副主任学芸員 塩田 稔雄]



歌川広重《東都名所隅田川堤の花 同向島名所一覽》1854(安政元)年



歌川国貞《江戸八景ノ内 隅田つゝみの晴嵐》1844-1848年(弘化初期)

(左上)
歌川国芳《当世江戸鹿子 永代橋》
1830-1844年(天保前期)

(右上)
歌川国芳《荒獅子男之助 八代目市川團十郎》
1849(嘉永2)年

(右)
月岡芳年《和漢百物語 清姫》
1865(慶応元)年

※すべて個人蔵



茨城県近代美術館

高校生特派員による企画展「没後100年 中村彝展」関連事業 中村彝を見て、感じて、描いてみる

2024年は中村彝(1887-1924)の没後100年に当たることから、当館では企画展「没後100年 中村彝展」を開催するとともに、様々な事業を通じて彝の業績を広く紹介しました。

その一環として実施したのが、「中村彝を見て、感じて、描いてみる」(以下「描いてみる」)です。このプロジェクトは、当館の情報発信応援サポーター・高校生特派員に、彝の芸術の素晴らしさを感じてもらい、その感じたものを中村彝展と同時期の11月1日(金)から2025年1月26日(日)まで、当館1階のアートフォーラムで発信してもらうものでした。

はじめに、中村彝の作品やその画業について触れ、そこから何かを感じ取ってもらうために、夏休み中に二つのプログラムを実施しました。一つ目が、当館所蔵の彝作品を対象とした対話型鑑賞や簡易模写、中村彝アトリエでの遺品見学を行う館内研修(1日間)、二つ目が、新宿区立中村彝アトリエ記念館と国立西洋美術館での県外研修旅行(1日間)です。そして最後に、この二つのプログラムを通して、高校生特派員が中村彝の作品から感じたものを、制作によって表現してもらいました。会場では、夏休み中の活動をパネルで紹介するとともに、彝の芸術が自らの制作に与えた影響について特派員に文章を寄せてもらい、これをキャプションにして作品とともに展示しました。

彝が没してから100年経った現代に生きる高校生に、その若い感性で捉えた彝の芸術の素晴らしさを自らの

表現で発信してもらおう今回のプロジェクト。最終的には、来場者が高校生の作品から何かを感じてもらい、今なお色褪せることのない彝の魅力が多くの人に伝わることを目指したものでした。

ところで、この「描いてみる」と並行して、もうひとつのプロジェクト「中村彝を見て、感じて、対話する」が動いていました。それは、対話型鑑賞におけるファシリテーター(参加者の感想を引き出す進行役)を高校生特派員に担ってもらうための養成講座ともいえるもので、作品制作に代わって、9月以降に当館の所蔵作品展において、ファシリテーターとなるための研修を実施しました。「没後100年 中村彝展」会期中の12月27日(金)と1月5日(日)に、「描いてみる」に参加した高校生特派員を対象に対話型鑑賞会を実施、ファシリテーターとしてデビューしました。高校生同士、盛んに感想を語り合う有意義な鑑賞会となりました。

[近代美術館 企画課長 中田智則]



簡易模写の様子



アートフォーラムでの展示の様子



「中村彝を見て、感じて、対話する」でのファシリテーター研修の様子



作品例:五位測繪佳《友人(青)》

作者のことは:中村彝が描いた肖像画にみられる“その人らしさ”の表現を取り入れた作品づくりを目指した。友人のイメージである青色を基調に、彝が影響を受けた西洋画の特徴である陰影を意識して描くことができた。



作品例:草野杏梨《ステンドグラスのある静物画》

作者のことは:彝はセザンヌなどの印象派の画家を参考にしていたと知り、セザンヌの静物画の不安定な筆触分割を参考にしつつ、自分の描き方も混ぜて描きました。また、彝の絵の独特な明暗を表現するためにステンドグラスをモチーフに選びました。

茨城県つくば美術館

美術講演会「国際博覧会における視覚芸術の効力」

2024年9月29日(日)「国際博覧会における視覚芸術の効力」という演題で、筑波大学芸術系准教授、林みちこ氏をお迎えして美術講演会を開催しました。

2025年4月、大阪・関西万博が開催されます。つくば科学万博から40年、沖縄海洋博から50年の節目でもあり、21世紀の日本にとって万国博覧会がどのような意味を持つのかを考える良い機会だと言えます。講演の内容は、万国博覧会全盛期である19世紀末から20世紀初頭の国際博覧会における美術展示を振り返ることで視覚芸術を利用した文化外交を考察するものでした。

1910年にロンドンで開催された日英博覧会は、当時の日本の様子が分かるジオラマによって日本の歴史を見せる一方で、尾形光琳の紅白梅図屏風など門外不出の大作を展示することによって日本の文化や技術力を見せるという両義性が特徴でした。また、大規模な美術展示に込めた日本側の思いの大きさ、国際博覧会においてそれらの視覚芸術が人々に与えたインパクトの大きさなどについてご紹介いただきました。

講演時間は約80分、当時の国際博覧会を記録したたくさんの方の写真によるスライドに、19世紀から20世紀初頭の博覧会リストや日本における万国博覧会のリスト等の配付資料を交え、その時代の日本の歴史や文化を様々な展示などの視覚芸術により紹介してきた様子を詳しく解説していただきました。日本を紹介する内容や手法が時代ごとに変化していく中で、自国の価値観や文化を広め国際的な友好関係を強化していこうとする目的は時代を超えて普遍であることなどについてもお話していただきました。講演会には46名の参加者があり、皆さん熱心に耳を傾けメモを取られていました。

講演終了後の質疑応答では、日英博などこれまでの国際博覧会の展示内容に関する質問、4月からの大阪・関西万博を始め、これからの国際博覧会の注目点や期待すること等についての質問があり、林氏の見解も合わせて丁寧に回答していただきました。

今回の講演により、少しでも多くの参加者が、美術史等への興味関心を高めるきっかけになっていただけましたら幸いです。

なお、林氏の当館での講演は、好評を博した2021年の「渋沢栄一を描いた画家石橋和訓」に続く2回目の開催となります。



講師：筑波大学芸術系准教授 林みちこ氏

茨城県天心記念五浦美術館

来館者とともに楽しむ 企画展「猫を愛でたい」猫耳大作戦!

企画展「猫を愛でたい」(11月26日～12月8日)では、アーティストトーク、講演会、ワークショップなど、毎週末のように様々なイベントを行いました。その中から、私たちの予想をはるかに超え、美術館スタッフと来館者がともに楽しんだオープンワークショップ「猫耳大作戦!」をご紹介します。

「猫耳大作戦!」とは、来館者が折り紙で猫耳をつくらせて館で用意した手づくりヘアバンドにつけ、それを頭に装着して展覧会を見ていただくプロジェクト。「まるで猫たちが美術館を歩き回っているかのように見せたい」という、展覧会担当者の希望から始まりました。

当初は、控えめに500人程度の参加者を見込んで準備を進めました。当館の来館者の大多数を占める“大人”は、「恥ずかしくて猫耳をつけないのではないか」と思ったからです。しかし、始めてみれば、当初用意していた猫耳の材料は2週間でなくなり、猫耳パーツの追加製作に日々追われることになったのです。友人同士やご夫婦、親子で猫耳を楽しんでいる姿が見られ、展示室では猫耳をつけたスタッフと、お互いの猫耳を見て会話が弾むという思わぬ効果もありました。最終的には、企画展「猫を愛でたい」の会期38日間で述べ1,499人が猫になって展覧会を楽しんでくださいました。

すべて手づくりの猫耳は、画用紙を墨で黒く染めたり、ゴムを取り付けたりと準備が大変ではありましたが、作品鑑賞以外の部分で展覧会を盛り上げるイベントも大切なものと実感するよい機会となりました。

[天心記念五浦美術館 首席学芸員主事 横山智絵]



手づくりヘアバンド



意外と難しい? (制作の様子)



猫耳をつけて作品鑑賞

茨城県近代美術館企業パートナーシップ事業

先号に引き続き、今回はゴールドパートナー企業の社会貢献・地域貢献の取り組みや文化芸術に関連した取り組みの事例をご紹介します。

茨城県近代美術館友の会

茨城県近代美術館友の会は、美術を愛好する人たちが集い、美術館の活動を支援しながら、会員相互の教養を高め、親睦を図ることを目的として、幅広い活動をしています。

茨城県天心記念五浦美術館と共通の友の会です。



2023年海外旅行(トルコ)

友の会会員には多くの特典があります。

- ‡ 近代美術館と天心記念五浦美術館のすべての企画展・常設展が無料です。
- ‡ 海外や国内の美術鑑賞旅行に参加できます。
- ‡ 美術講座や学芸員によるギャラリートーク等に参加できます。
- ‡ 会報誌「游美」や友の会行事案内、美術館資料が郵送されます。
- ‡ ショップでの図録購入やレストランでの食事の割引があります。

茨城県近代美術館の支援を行っています。

パートナー企業として、近代美術館と五浦美術館の運営全般を支援しています。友の会の活動や入会申込みの詳細につきましては、ホームページをご覧ください。

(<https://fmoma.com>)



友の会HP



会報誌「游美」

関東鉄道株式会社

平素より、当社グループをご利用いただきまして、誠にありがとうございます。

利用者をはじめ、ご愛顧くださったすべての皆様に感謝いたします。これからも安全・安心・良質なサービスの提供に努め、「地域のふれあいパートナー」として地域の発展に尽くしてまいります。



EVバス



シェアサイクル

EVバス、ハイブリッドバスを積極的に導入

当社では、二酸化炭素を一切排出しない電気で動くEV（電気）バスを7両、電気とディーゼルエンジンの双方で動くハイブリッドバスを29両それぞれ導入し、環境への配慮に努めております。

EVバスは、災害時、電源供給車として活用できます。

環境負荷軽減へ、シェアサイクル「関鉄Pedal」エリア拡大中

当社では、モビリティの多様性実現による地域住民や観光利用者の利便性向上を目指すと共に環境に優しい移動手段の提供により、カーボンニュートラルの実現に向けた環境負荷軽減を目指し、2023年より土浦エリアを皮切りにシェアサイクル「関鉄Pedal」のサービス提供を開始しました。現在は常総エリアや千葉県内など31箇所（2024年11月現在）にサイクルステーションを展開しております。2024年12月より守谷エリアにもステーションが設置され、更なる利便性向上と環境負荷軽減を図ってまいります。

パートナー企業の皆様



近代美術館友の会



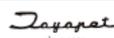
関東鉄道株式会社



AEON MALL



茨城交通



イオンモール株式会社

当社は、「Life Design Developer」の経営理念のもと、持続的な社会の実現に向けて、地域・社会に貢献・活性化する取り組みを『ハートフル・サステナブル』として定め、各モールにて様々な活動に取り組んでいます。



イオンモールは、館内にウォーキングコースをつくりました。

「イオンモールウォーキングで地域のみなさまの健康をサポート」

イオンモールでは、地域のお客さまの健康拠点として、また、豊かで充実した毎日を提供するショッピングモールであり続けるために、ヘルス&ウエルネスの推進に取り組んでいます。

一つの例として、昨今の健康志向の高まりや、猛暑等の気象条件による屋外活動の制限を受け、館内でウォーキングを行う『イオンモールウォーキング』に取り組んでいます。



茨城県内をはじめ全国のイオンモールで、館内にウォーキングコースを設置し、季節や天候、時間に左右されずに自由に運動をお楽しみいただけます。

これからも、イオンモールウォーキングを通して、地域のみなさまの健康をサポートしていけたらと考えています。

茨城交通株式会社



当社は、県央、県北地域を中心に地域に密着した交通手段として、乗合・貸切バス事業を展開しております。

安全な運行、安心していただけるサービス、安定した経営を会社の重大題に掲げ、地域の皆様の「足」としての責任を果たして参ります。



路線バス全車でクレジットカードタッチ決済・二次元コード決済のサービス導入

茨城交通では、路線バス全車両（約400台）において、クレジットカードのタッチ決済、二次元コード決済のサービスを導入しております。

現金やICカード「いばっぴ」に加え、普段の買い物でもご利用されているタッチ決済や二次元コード決済が路線バス運賃でもご利用いただけますので、日常的にバスをご利用いただいている方だけでなく、観光のお客さまなど普段茨城交通の路線バスをご利用でない方でも便利にご利用いただけます。



〈中村彝REMEMBERプロジェクト〉

クラウドファンディングの支援金を活用して、10月28日より彝アトリエ・エリアのリニューアル改修工事が始まりました。

大きく繁った巨木を大型のクレーンを駆使して伐採したり、混み合った樹木を剪定した結果、鬱蒼としていた場所に日の光が差し込み、見違えるように明るく開放的な雰囲気になりました。また、ザ・ヒロサワ・シティ会館入り口にある中村彝像を移設しました。

現在、アトリエ周辺の花壇整備を進めているところです。

茨城県近代美術館

《企画展・関連イベント》

《キース・ヘリング展 アートをストリートへ》

2月1日[土]～4月6日[日]

・講演会「1980年代のキース・ヘリング」

講師：村田真氏（美術評論家／BankARTスクール校長）

日時：2月24日[月・振] 午後2時～午後3時30分

会場：地階講堂

定員：250名（申込不要・参加無料）

・学芸員によるギャラリートーク

講師：乾健一（本展担当学芸員）

日時：2月16日[日] 午後2時～午後3時

会場：2階企画展示室

定員：なし（申込不要、要企画展チケット）

・学芸員による鑑賞講座

講師：乾健一（本展担当学芸員）

日時：3月9日[日] 午後2時～午後3時30分

会場：地階講堂

定員：250名（申込不要、参加無料）

・ことばでつなぐ美術鑑賞ワークショップ

講師：視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

日時：3月2日[日] 午前10時30分～12時30分

午後 2時30分～4時30分

会場：地階講座室、2階企画展示室

定員：午前・午後各16名

対象：障がいの有無に関わらず、中学生以上どなたでも

《アーツ・アンド・クラフツとデザイン》

4月19日[土]～6月29日[日]

・講演会「アーツ・アンド・クラフツとデザイン

ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで」

講師：藤田治彦氏（大阪大学名誉教授）

日時：5月10日[土] 午後1時～午後2時30分

会場：地階講堂

定員：250名（申込不要、参加無料）

・美術館アカデミー「ウィリアム・モリスと理想の書物

—ケルムスコット・プレスの名詩の園」

講師：小林英美氏（茨城大学教授）

日時：5月18日[日] 午後2時～午後3時30分

会場：地階講堂

定員：250名（申込不要、参加無料）

・学芸員による鑑賞講座

講師：山口和子（本展担当学芸員）

日時：6月7日[土] 午後2時～午後3時30分

会場：地階講堂

定員：250名（申込不要、参加無料）

《所蔵作品展 第1展示室》

《日本の近代美術と茨城の作家たち 冬から春へ》

後期2月18日[火]～4月6日[日]

《所蔵作品展 第2展示室》

《木村武山 須磨殿殿杉戸絵》

2月18日[火]～4月6日[日]

※最新の情報は各館ホームページ等でご確認ください。

《その他のイベント》

・ようこそ！美術の森へ—学芸員と巡るコレクション

日時：3月15日[土]、4月19日[土]、5月17日[土]

各日とも午前11時～（30分程度）

会場：1階所蔵作品展示室

定員：なし・申込不要

※要所蔵作品展チケット（土曜日は高校生以下無料）

※各イベントの詳細や申込方法は当館ホームページをご覧ください。

茨城県つくば美術館

《土曜講座》

3月15日[土] 午後1時30分～（1時間半程度）

第12回「南画の魅力—奥原晴湖を中心に」

【講師】宮本 夢花（茨城県天心記念五浦美術館学芸補助員）

会場：2階アルスホール

料金：無料

《ビデオ鑑賞会》

時間：各日午後1時30分～

会場：2階講座室

料金：無料

2月22日[土]

・第8回「美の美シリーズ⑧」

ミケランジェロ／ラファエルロ／フラ・アンジェリコ（47分）

3月8日[土]

・第9回「美の美シリーズ⑨」

グリューネヴァルト／メモリンク／ファン・デル・ウエイデン

／フェルメール（42分）

《とびだす！カードづくり

つくぞうつくるぞう！》

時間：各日午後1時30分～午後2時30分

会場：2階講座室

料金：無料

参加：当日受付（先着順・20名程度）

※事前予約はございません。

2月15日[土]

・第11回 テーマ：ひな祭り

3月22日[土]

・第12回 テーマ：春のお散歩

《ギャラリー展》

2月11日[火・祝]～2月24日[月・振]

・令和6年度卒業制作展 筑波大学芸術専門学群卒業制作展

【総合】

2月26日[水]～3月2日[日]

・TANKEI EXHIBITION 耽筆為展【絵画・書】

3月4日[火]～3月9日[日]

・第24回チャレンジアートフェスティバル in つくば【総合】

3月11日[火]～3月16日[日]

・皮膜と身体、乾漆の造形 一漆芸と彫刻のインターセクショ

ン—【彫刻・工芸】

3月18日[火]～3月23日[日]

・悠響書展【書】

茨城県天心記念五浦美術館

《企画展・関連イベント》

《奥原晴湖と近代の南画》

2月21日[金]～4月20日[日]

・展覧会担当者によるギャラリートーク

日時：3月8日[土]、4月6日[日] 午後1時20分～

会場：企画展示室A ※要企画展当日入場券、申込不要

・ワークショップ「水墨画を体験してみよう」

筆と墨を使って竹を描いてみましょう。

日時：3月1日[土] 午前10時～、午後1時30分～

会場：講座室

※各回定員20名程度、要企画展入場券、当日先着順

《浮世絵展—隅田川でたどる

江戸の暮らしと文化—》

4月26日[土]～6月8日[日]

・ワークショップ「うちわ絵づくりで体感！江戸の風」

日時：5月24日[土] 午前10時～、午後1時30分～

会場：講座室

・オープンワークショップ「浮世絵の摺り体験」

日時：会期中の土日祝（ただし5月17、24日をのぞく）

午前10時～午後4時

会場：講座室

《再興第109回院展 茨城五浦展》

6月21日[土]～7月21日[月・祝]

・出品作家によるギャラリートーク

講師：倉島重友氏（日本美術院同人）他

日時：6月21日[土] 午前10時～午前10時50分

会場：企画展示室 ※要企画展当日入場券

・倉島重友氏（日本美術院同人）他によるサイン会

※第109回院展図録にサインします。

日時：6月21日[土] 午前11時～

会場：企画展示室出口

定員：当日先着50名

《その他のイベント》

・来て・見て・発見！アートツアー for kids

日時：5月17日[土] 午前10時～ 会場：展示室、講座室

定員：小中学生と保護者5組（1組4名まで）

※要事前申込（先着順）、保護者のみ要企画展当日入場券

《映画会（五浦名画座）》

会場：講堂

定員：各回114名（当日受付先着順・申込不要）／無料

時間：午前の部9時45分～、午後の部1時30分～

・3月9日[日] 「三度目の殺人」124分



茨城県近代美術館

〒310-0851
水戸市千波町東久保666-1
TEL 029-243-5111
FAX 029-243-9992

HP <https://www.modernart.museum.ibk.ed.jp/>



茨城県つくば美術館

〒305-0031
つくば市吾妻2-8
TEL 029-856-3711
FAX 029-856-3358

HP <https://www.tsukuba.museum.ibk.ed.jp/>



茨城県天心記念五浦美術館

〒319-1703
北茨城市大津町橋2083
TEL 0293-46-5311
FAX 0293-46-5711

HP <https://www.tenshin.museum.ibk.ed.jp/>

県立美術館3館（近代美術館・天心記念五浦美術館・陶芸美術館）共通の年間パスポートを発売中！詳しくはお問い合わせください。

美術館では以下の方は無料で展覧会をご覧いただけます。

○土曜日來館の高校生以下の方（ただし、土曜日が夏季、冬季及び学年末・学年始における学校の休業日に当たるときは除きます） ○教育活動としての茨城県内の小・中・高・義務・中等教育・特別支援学校（県外含む）の児童生徒及び引率者並びに教育活動としての茨城県内の幼稚園の幼児の引率者 ○国際交流事業として国外から本県に留学している方 ○児童福祉施設、身体障害者更生支援施設、知的障害者支援施設、老人福祉施設に入所している方及び付き添いの方（1人につき付き添い1人まで） ○身体障害者手帳、療育手帳の交付を受けている方及び精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方及び付き添いの方（1人につき付き添い1人まで） ○指定難病特定医療費受給者証の交付を受けている方及び付き添いの方（1人につき付き添い1人まで） ○生活保護法により扶助を受けている方

友の会ニュース 友の会では皆様のご入会をお待ちしております。

＜お知らせ＞

①「令和6年度茨城県芸術祭美術展覧会」が、10月5日（土）～10月20日（日）の期間に茨城県近代美術館及びザ・ヒロサワ・シティ会館で開催されました。延べ48名の友の会会員の皆様が来館し、作品を鑑賞いたしました。友の会会員の皆様は「友の会会員証」の呈示により1回のみ無料でご覧いただけます（2回目以降は、団体料金となります）。なお、会員証の呈示がない場合は一般料金となりますのでご了承ください。

②友の会では、新規入会の申込みを随時受け付けております。茨城県近代美術館でお申し込みの場合は、入会申込書を提出し、入会金を現金でお支払いください。直ちに仮会員証を発行いたしますので、会員としての特典をすぐにご利用いただけます。また、茨城県近代美術館友の会ホームページからも申し込むことができます。

詳しいお問い合わせ

・年会費、ご入会等に関する詳しいお問い合わせは県近代美術館友の会事務局（☎029-243-5111）までお願いいたします。

・友の会ホームページでも年会費、ご入会等に関して確認できます。

<https://fmoma.com>

